

## 第 10 回海陽町立海南病院改革検討委員会議事録

令和 5 年 11 月 7 日（火）

18 : 30 ~ 19 : 30

海陽町役場海南庁舎

3 階大会議室

委員長： ただいまから第 10 回海陽町立海南病院改革検討委員会を始めます。

さて前回、9 月 5 日に開催した第 9 回改革検討委員会では、海南病院の令和 4 年度および改革計画期間である 3 年間の目標に対する評価検証や新しい取り組みの効果と今後の方向性などについての協議を行いました。

本日の改革検討委員会では、これまでの検証や協議内容を踏まえ、今後の海南病院の方向性を示した「海南病院経営強化プラン」をご確認いただき、改革検討委員会としての最終の検証を出したいと思います。

委員の皆さまからもご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは議題にそって会議を進めたいと思います。報告事項（1）「第 9 回改革検討委員会の協議事項について」事務局より説明してください。

事務局： 報告事項（1）「第 9 回検討委員会の協議事項」について説明

委員長： ただいまの事務局の説明について、何か質疑などございませんか。

質疑がないようですので、続いて協議事項に移りたいと思います。

協議事項（1）「海南病院経営強化プランについて」事務局より説明してください。

事務局： 協議事項（1）「海南病院経営強化プラン」について説明

委員長： 事務局から海南病院の今後の方向性を示した経営強化プランについて説明がありましたが、ご意見や質疑などございませんか。

委員： 医師の確保について、来年 4 月から岡山県の民間病院から医師が来ていただけるとのことですが、詳しく教えてください。

事務局： 岡山県の民間病院の総合診療科で勤務されている医師。もう一人は医

師3年目の若手医師の2人が来ていただけることになりました。

最初の先生は、祖母が海陽町出身で海陽町にゆかりがあります。海陽町や海南病院のために何かしたいという思いがあったそうですが、これまでマッチングの機会が無く、5月に海陽町で開催された地方創生医師団のシンポジウムに参加したことでその思いが更に強くなり、我々の方も是非ともということでお願いし、来ていただくことになりました。

もう一人の先生は最初の先生の誘いで来ていただけることになりました。先生は海陽町とはゆかりはありませんが、サーフィンで生見などにも来ていて、そのこともあり、お二人とも岡山県の民間病院を週4日程度勤務、海南病院には週1~2日（日・月曜日）勤務していただけることになっています。

委員： その二人は同じ日に勤務するのですか。

事務局： 当初は、金・土曜日、日・月曜日に分かれてそれぞれ勤務していただく予定でしたが、一人の先生が医師3年目ということもあり、先生の指導を受けながら勤務したいとのことから、当面の間は同じ日（日・月曜日）に勤務することになります。

委員： 話は変わりますが、事務局からの説明の補足させていただきたいと思えます。

前回の第9回の改革検討委員会では令和2年度から令和4年度までの海南病院の3年間の実績や取り組みについて検証したところです。この3年間に、新型コロナウイルス感染症の対応においては、県立海部病院や町内の医療機関と連携する中で、海南病院が公的医療機関として、地域医療の確保のための重要な役割を果たし、その重要性を改めて認識されたところです。

病院では改革計画の目標達成に向けて職員一丸となって、新たな取り組みなども実施してまいりましたが、十分な成果が出ない状況でした。

これも一番の原因は、医師不足や看護師・コメディカルの人員不足などにより十分な体制が整わなかったことが大きな要因でした。

今回の海南病院経営強化プランについても、海南病院が改革計画に引き続き取り組んでいく内容であり、昨日の町議会においても説明させていただきました。

収益を上げることはもちろんとして、町の一般会計からの繰り入れをどれだけ削減できるかについて、議員からの厳しい指摘もありました。

また、一番の課題でもあった医師確保については、来年度から新たに2名の医師に来て頂くことになりました。また看護師やコメディカルについてもある程度見通しがついてきたので、これからは今まで以上に、経営改革に向けて取り組んでいくことができると考えています。

さらには、11月19日の海南病院まつりも新たに開催されることになり、これには職員はもちろんのこと、徳島大学医学部、全国医療系学生団体43名程度や地方創生医師団の先生方や関係者などにご協力をいただいております。

このイベントを通じて、多くの町民の方に海南病院に来ていただき、病院の中を見て身近に感じていただくことで、海南病院の存在や必要性を感じていただければと思います。

これからは本当の改革計画の成果が問われると思っています。数値目標についても厳しい目標値となっていますが、目標達成にむけ、職員一同協力しながら経営強化プランに取り組んでいくことで海陽町における地域医療施設として、海南病院の必要性について広く理解していただけるよう努力していきたいと考えています。

委員長： 2名の医師確保ができるとのことだが、限られた日だけの勤務です。会議資料の7ページの表-2「収入確保に係る目標数値」を見ていただいたら分かりますが、主な収益アップにつながるのは入院による収益です。入院収益のアップのためには単発の先生では乗り切れません。

現在、平均20床程度の利用ということですが、最終目標である平均33床を目指すなら、今よりも13床プラスとなると、常勤医が1名ないし2名プラスで必要となりますが、そういう医師が来ていただけるというところで、はじめて成立することになります。

岡山県の民間病院のやる気のある若い先生が来ていただけることになっていますが、その先生とつながりができて、こちらでしっかり1年間きていただけたらどうかというつながりができればと思います。

そのあたりのところをしっかりと確保しないと、今やってる努力は評価できませんが、まず常勤医を確保することが一番の課題だと思います。それができないと、この改革計画も達成できないと思います。

そのあたりをぼやかさず、しっかりとそこに焦点を当てていく必要があると思います。

事務局： 病院の収入の核は入院収益あり、入院収益が上がらなければ経営は厳

しいのは事実です。

その中で、常勤医の確保は必須だと思いますが、来年度から週1・2日、新たな先生に来ていただけることで、そこからつながる可能性はあると思います。

何かの伝手で又は、その先生がということも思いますがたちまちということは厳しいと思います。

常勤医師まではいかなくとも週3・4日勤務の医師が数名となれば、入院数を増やすことができると考えています。

現在、週4日勤務いただいている内科医師により、入院についてはその先生を中心に来年度から来ていただける先生と連携し、入院数の増加を目指したいと思います。

常勤医の確保については、職員一同、海陽町にも協力いただき、確保に向けて現在取り組んでいるところです。

委員長： 徳島県内の若い医師のおかれている状況がかなり変わってきていると思いますが、現在の状況について教えていただきたい。

委員： 徳島県は医師数が過剰な県として全国的に位置づけられており、専攻専門医の数、特に内科の医師の数が制限されており、何名以上は受けてはいけないというような、国からのお達しというか通知、縛りがあります。

新しい先生が、内科を目指そうとしても徳島県では育たない。徳島県が動いて全国知事会などを通じて働きかけているが、実態として医師の数が多いいのは間違いありません。

ただ、60代・70代あるいは民間の医療機関で働く先生が多くて、公的医療機関で働く若い先生が少ないのは事実です。

徳島県では医師の高齢化が進んでおり、現場で働く、当直・日直をこなしながら救急対応もする先生が少ないのが事実で、非常に我々は危機感を持っています。

その中で、常勤医を確保することは、海部病院をはじめとする県立病院医師も含めて苦心しています。

言い方が悪いが、パートの医師なら何とかあることがありますが、常勤医が確保できないのは比較的大きな病院でも同じことです。

我々の県立病院、町立病院も含めてほとんどの県内の医療機関の医師は徳島大学が出資母体で、あとは自治医大の出身者です。

海南病院が再興するためには、過去数年間見てまして、順風満帆な時、厳しい時いろいろあるが、一番の原因は医師の数が減ったところにあると

思います。大学からの医師の派遣が途絶えたことが一番の原因だと思います。その根本的な原因のところを回復させる力は、町にしかないと思います。住民の力も必要ですが、それを一同になって動かすことができる町の力が必要になると思います。

今度来られる医師が勤務されている病院は1,000床以上ある西日本屈指の大きな病院で、来ていただけることは非常にありがたいことですが、ずっと来ていただけることは次元が違う話だと思います。

徳島大学との連携を再構築する必要があるのではないかと思います。

委員長： 常勤医の確保は本当に難しい。大規模病院と関係性を構築することはいいアイデアだと思います。特別な関係ができれば別ですが、徳島県の医師が来てくれないと、岡山県の医師が来てくれるかが疑問です。いろいろな方向に目を向けて一番大事なところに集中的に力を注ぐ必要があると思います。

委員長： あといかがでしょうか。何かご意見や質疑等はございませんか。

質疑などが無いようなので、次の(2)その他に移りたいと思います。

全体を通しての質疑やご意見等がありましたら、自由に発言をお願いします。

委員長： 質疑や意見が無いようですので、まとめに移らせていただきます。

本日の会議では、海南病院の今後の方向性を示した経営強化プランについて説明があり、それに対する委員の意見があり議論されたところがありました。

これまでの改革検討委員会での意見及び議論を踏まえて、まとめると今後の海南病院の方向として、

病床機能、病床数は現在を維持しながら、

- ①安定した医師をはじめとする医療従事者の確保
- ②可能な限り看取り患者の受入れ
- ③在宅医療の充実・強化
- ④救急医療について、海部病院と連携を強化し、今後の体制状況により機能分化を推進
- ⑤町からの繰入金の縮小

これらのことを着実に実施していただくこと。

しかしながら住民が必要としないとの意見がある場合や、町からの繰入金が増大していく場合は、必要に応じた規模への縮小又は経営形態移行

に向けた検討をしていただきたいと思います。

住民の目が厳しい中で、「地域から信頼される病院」、「健全な経営」を院長はじめ職員が一つになってこれからも取り組んでいただきたいということを、海南病院改革検討委員会の検証とさせていただきます。

以上で、本日の議題は全て終了しましたが、他に何かございますか。

委員長： それでは最後に、委員長として閉会の挨拶を申し上げます。

令和元年11月に第1回改革検討委員会を開催し、本日まで10回の開催となりましたが、委員の皆さまにおかれましては、今後の海南病院への思いやご意見を頂き誠にありがとうございました。

今後、海南病院が住民にとってより良き病院であることを願います。そしてこの計画が見事に成就されることを願っています。

以上をもちまして、海陽町立海南病院改革検討委員会を終了します。ありがとうございました。